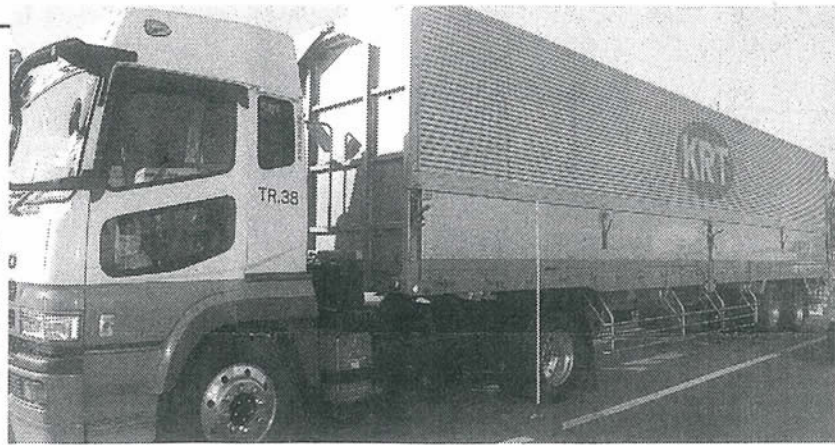


駐車スペースにポールを設置



川崎陸送名古屋営業所

川崎陸送(樋口恵一社長、東京都港区)の名古屋営業所(愛知県大口町)は、昨年11月に行われた「第32回KRT-QCサークル代表発表会」で1位相当の優秀賞を獲得した。

受賞したのは、同営業所のサークル「BIGマウス」による社有トラックの車両事故削減を目標にした取り組みだ。この試みで「ちょっとした事故」をゼロにした。昨年9月末までの活動をまとめた後も、現在に至るまで無事故を継続しているという。

名古屋営業所は2008年、社内で最も車両事故を起こした営業所だった。軽微なものが多いとどしたが、保険や修理のコスト、休車などによる損害額は数百万円に上る。

BIGマウス ■ 第32回QCサークル優秀賞

事故情報揭示、指さし呼称徹底

サークルが考案したのは、ドライバーの車両感覚向上と安全確認に対する意識向上の仕組みだ。

最初はトラックの駐車スペースにポールを設置してドライバーの運転技術を磨き、バック事故をなくす試み。ポールは2本を一組として、①左側からバックで

車庫入れ②右側からバックで車庫入れ③輪留めから20センチ前で止める——と計3パターンの配置を10日ごとにローテーションで運用する。ポールには、夜間の帰宅時でも見えるように反射テープを張った。

狙い通り抑止

次に、営業所の掲示板に新聞やインターネットで見

つけた事故情報、社内の事故速報などを揭示。これをドライバーが見るのはもちろん、確認の日付を記入する欄を設け、読んだらサインするようにし、事故に対する意識付けを行った。

さらに、営業所出入り口に「右ヨシ」「左ヨシ」の看板を設置して、ドライバー

らは「最初は邪魔だったが、車庫入れがうまくなった」といった報告のほか、「切り返しを面倒と思わなくなった」との声が寄せられた。

「掲示板の情報で事故を意識したり、事故が他人事とは思えないと感じる」といった意識改革にもつながり、狙い通り意識変化の面でも事故を抑止できた。

ドライバーを務めた長友博文さんは「QC活動の一環ということで、ドライバーの意見を採り入れて行ったのが良かった」と、成功の秘けつを話す。

山崎悟所長は「これからも年2回の定期訓練を実施して技術の向上を図るとともに、この取り組みを続けて無事故を維持したい」と話している。

この結果、ドライバーか

この結果、ドライバーか

この結果、ドライバーか

(梅本 誠治)